

中学校第1学年 国語科 学習指導案

期 日 平成28年2月19日(金)第2校時
場 所 山鹿市立山鹿中学校1年1組教室
授業者 教諭 水町 泰祥

1 単元名

「登場人物のインタビュー記事をまとめよう」～視点を明確にして、人物の心情を読み深める～
(「少年の日の思い出」)(光村図書 国語1)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領第1学年読むこと「ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること」を受け、登場人物の心情や行動、情景描写などを注意深く読み進めることを通して、文学的な文章の解釈の仕方を学習する。その際、読み手(生徒)が視点を明確に定めて読むことが重要であり、それが文学的な文章の深い理解や感動につながっていくと考える。

本単元の教材「少年の日の思い出」は、語り手である「僕」の心情の移り変わりが優れた描写で詳述されている。また、「額縁構造」となっている冒頭場面の情景描写も、象徴性や暗示性の高い表現となっている。そうした点で、登場人物に感情移入しながらも、様々な描写に込められた作者の意図を客観的に解釈することを通して、より深く内容を理解することができる教材であると言える。

さらに、本単元を通して行う「登場人物のインタビュー記事をまとめる」言語活動は、視点を明確にして読むための有効な手立てになると考える。登場人物への仮想のインタビューは、まさに生徒自身が作品に自問自答する主体的な学びであり、各自が記事を比較し、それを協働的に学ぶことで一人では気付かない作品の深い理解につながることを期待できる。

(2) 系統観

第1学年	第2学年	第3学年
【物語】 「にじの見える橋」 C読むこと(1)アウ 【物語】 「星の花が降るころに」 「大人になれなかった弟たちに」 C読むこと(1)アウエ 【小説】 「少年の日の思い出」 C読むこと(1)ウ	【小説】 「アイスプラネット」 C読むこと(1)アウエ 【小説・随筆】 「盆土産」 「字のない葉書」 C読むこと(1)アウエ 【小説】 「走れメロス」 C読むこと(1)エ	【随筆・小説】 「朝焼けの中で」 「握手」 C読むこと(1)アオ 【小説】 「故郷」 C読むこと(1)アウエオ 【随筆】 「温かいスープ」 C読むこと(1)エオ

(3) 生徒観

○4月のNRT検査では、全ての領域で全国平均を上回っているが、「読むこと」の正答率が一番低い。

特に、「段落の構成の理解」「具体例の読み取り」「細部の読み取り」などの正答率が低い。

○本単元に関する意識調査の結果は、以下のとおりである。(調査の一部を抜粋)

質 問 項 目	とても+まあまあ
文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解している。	60.6%
文学的文章を読むとき、場面の展開や登場人物の描写に注意して、内容を理解している。	87.9%
文学的文章を読むとき、登場人物や語り手に着目し、視点を明確にして読んでいる。	60.6%
自分の課題を解決するために、積極的に友達に質問している。	66.6%

○平成25年度全国学力調査(中学校国語A²)を活用した事前調査の結果は、以下のとおりである。

項 目	正答率	全国平均	差
描写に注意して読み、内容を理解すること	64.5%	76.5%	-12.0
描写の効果を考え、内容を理解すること	93.5%	87.0%	+6.5

○以上のことから、生徒は、場面の展開や登場人物の描写に注意して、内容を理解しようとしているものの、語り手に着目し、視点を明確にして読むことは苦手としていることがわかる。自らの課題を協働的に解決することも含め、視点を明確にして文学的な文章を読み進め、様々な描写に込められた作者の意図を自分の課題として主体的に理解することができるための手だてが求められている。

(4) 指導観

○このような実態を踏まえ、本単元で身に付けさせたい力を「視点を明確にして、登場人物の心情を理解する力」とし、そのために本単元を通して行う言語活動を「登場人物のインタビュー記事をまとめよう」と設定する。自分が選んだ登場人物の視点から作品を読み深め、お互いに協働的に学ぶ合うことで、登場人物の心情に迫れるようにしたい。

○本教材では、冒頭場面と回想場面で語り手がかわる。後半の回想は、「僕」の視点から見た人物描写が中心であり、「エーミール」や「母」の心情はほとんど語られていない。そのため、生徒は一面的な読みになりやすく、描写に込められた作者の意図を理解する「深い読み」や、主人公以外の視点から作品をとらえ直す「多面的な読み」ができにくい傾向にある。そこで、「自分が選んだ登場人物にインタビューし、それを記事にまとめる」という活動を通して、生徒自身が登場人物と主体的に「対話」することで、登場人物に込められた作者の思いを理解させたい。同時に、それぞれの記事を交流する中で、同じ出来事でも別の人物の視点で読めば「多面的な読み」ができることを理解させ、協働的に学ぶ意義や関係形成の重要性を意識した学習ができるように工夫したい。

【視点1】学びを引き出す 豊かなかかわり合いのある 言語活動	【視点2】学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り	【視点3】学びを支える 学びのUD化と 効果的なICTの活用
【視点1】 単元を貫く課題解決のため、言葉への着目による課題の焦点化を行うとともに、対話型言語スキルを活用し、協働的な学びの充実を図る。	【視点2】 思考ツールを活用した板書やワークシート等を工夫するとともに、毎時間の授業で振り返りの視点を明確にし、メタ認知力の向上を図る。	【視点3】 学びのUD化の視点から一人一人の学びを的確に見取るとともに、資料や学習課題の提示等において効果的なICTの活用を図る。

◇インクルーシブ教育の視点から

【基礎的環境整備】

・学習の見通しと課題意識が持てるように、ICT機器を活用して、学習過程や学習課題を提示する。

【合理的配慮】

・対象生徒なし

3 単元の目標と評価規準(国立教育政策研究所作成の「評価規準の設定例」参考)

単元の目標	読む視点を明確にして、登場人物の心情を読み深めることができる。		
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
ア「小説を読み、内容や表現の仕方について感想を交流する」言語活動を通じた指導			
①小説について感想をもち、交流して考えを深めようとしている。	①場面の展開や登場人物など描写に注意して読み、自分の感想をもっている。(ウ) ②感想を交流するために、表現の特徴等について、具体的な部分を参考に考えをまとめている。(ウ)	①事象や行為などを表す多様な語について理解し、自分の考えをまとめる際に、より適切な語句を選んでいく。(イ(ウ))	

4 指導・評価の計画（6時間取扱い 本時6／6）

次時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 【3つの視点から】	評価の観点（評価方法） B基準
1	1 ○単元を貫く言語活動を理解し、学習の見通しを持つ。	・視点を明確にして、登場人物の心情を読み深めるという目的で本単元を学習することを伝える。	
	単元を貫く言語活動「登場人物にインタビューをして、それを記事にまとめよう！」		
1	○本文を通読し、登場人物の関係や文章の構成等をとらえる。	・新聞や雑誌等のインタビュー記事を文章のモデルとして示す。 【視点1】言葉への着目による課題の焦点化 ・人物描写や場面の展開に注意して、全体の内容を整理しながら、まとめていく。	関心・意欲・態度①（観察） 人物描写や場面の展開について、考えながら読んでいる。
2	2 3 4 ○「僕」と「エーミール」の人物像の描写から、二人の関係を読み取り、最後の「僕」の行動の意味を考える。	・語り手に着目して、誰の視点から出来事が語られているかを理解できるようにする。 ・場面ごとの「僕」の心情の変化を読み取らせ、それが最後の「僕」の行動の伏線になっていることに気付けるようにする。 ・冒頭の語り手である「私」が最後に再び登場しないのはなぜかを考え、「客」と「私」の関係についても考えられるようにする。 【視点1】言葉への着目による課題の焦点化 【視点3】ICTを活用した資料等の提示	読む能力①（発言・ノート） 場面の展開や登場人物など描写に注意して読み、自分の感想をもっている。 言語への知識・理解・技能①（発言・ノート） 事象や行為などを表す多様な語について理解し、自分の考えをまとめる際に、より適切な語句を選んでいる。
	5 ○自分が選んだ登場人物のインタビュー記事をまとめる。	・「僕」「エーミール」「僕の母」のいずれかを選び、ちょうがつぶれたことに対する思いを本文の叙述に即してまとめるようにする。 【視点2】思考過程を可視化する思考ツールの活用	読む能力②（発言・ノート） 感想を交流するために、人物描写などの具体的な表現を参考にして考えをまとめている。
3	6 (本時) ○まとめた記事を交流し、それぞれの登場人物の思いを読み取る。	・同じ人物を選んだグループと違う人物を選んだグループで、それぞれ交流できるよう工夫する。 ・前時と比較して、なぜ登場人物の印象が変わったのかについて考えられるようにする。 ・別の人物の視点で読むと、多面的な読みが可能であることを互いに確認できるように支援する。 【視点1】対話型言語スキルを活用した協働的な学びの充実 【視点2】メタ認知を促す振り返りの工夫	読む能力②（学習シート） 感想を交流するために、人物描写などの具体的な表現を参考にして考えをまとめている。

5 本時の学習

(1) 目標

各自がまとめたインタビュー記事を交流し、それぞれの登場人物の思いを読み取ることができる。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 本時の課題を確認する。 学習課題（めあて）	○各自がまとめたインタビュー記事を交流し、それぞれの登場人物の思いを読み取ることができる。	学習の流れ
インタビュー記事を基に、それぞれの登場人物の思いを読み取ろう。			
展開 15分	2 学習課題に取り組む。 (1) 前時に作成したインタビュー記事を基に、互いの考えをグループで交流する。 A：同じ人物を選んだグループ B：違う人物を選んだグループ ・話し手は、「主張・根拠・理由づけ」を明確に話す。 ・聞き手は、思考を比較し、反応しながら聞く。	○話型を含めて話し合いの仕方を簡単に説明する。 ○班は3～4名とし、全員が発言できるようにする。 徹底指導 （ポイント） 考えの根拠となる叙述を明確にして、相手に伝えさせる。 ○Aの交流活動では、共通点と相違点を見つけさせ、主に共通点の根拠について話し合うようにする。 ○Bの交流活動では、相違点を見つけさせ、それぞれの立場で話し合うようにする。	インタビュー記事
10分	(2) 前時と比較して、登場人物の印象の変化をグループで確認し合う。 ・印象の変化の原因も考える。	○交流活動で出された考えは、各自でメモを残すように促す。 能動型学習 （ポイント） なぜ、登場人物の印象が変わったのか、その理由を「視点」の違いと関連付けて考えることができるようにする。	ワークシート
15分	(3) 印象の変化の原因について、全体で交流する。 ・「視点」の違いを理解する。 （対話型言語スキルの活用） 私は、○○に□□と書いてあり、それが△△につながるの で、○○と考えました。 みなさんはどうですか？ それは、つまり……ということですか？ 例えば、何ですか？ ○○さんの意見を聞いて、思いついたのですが……。 みんなの意見をまとめると、……だと分かりました。	○同じ出来事でも視点の違いによって、多面的な読みができることを互いに確認できるようにする。 ○主体的・協働的な学びとなるように、教師による適切な言葉かけや支援を行う。 【視点1】対話型言語スキルを活用した協働的な学びの充実 評価：読む能力②（学習シート） B基準 印象の変化について、人物描写などの具体的な表現を参考にして、自分の考えをまとめている。 A基準 印象の変化について、友達の意見や、自分の知識や経験などを交えて自分の考えをまとめている。 〈B基準に達していない生徒への手立て〉 ○友達の意見を聞きながら、一番納得した意見を参考にして書けるように支援する。	スキル表
整理 5分	3 単元を通して学習したこと の振り返りを行う。	○以下の視点で、授業を振り返るようにする。 ①授業で身に付いたこと（不十分だったこと） ②友達から学んだこと ③さらに学習したいこと ○今後、文学的な文章を学習するときに、今回の学びを生かしていく意識を高める。 【視点2】メタ認知を促す振り返りの工夫	ワークシート

少年の日の思い出

学習の流れ

目標確認

課題①(15分)

班
全体

課題②(25分)

班
全体

まとめ

めあて

インタビュー記事を基に、それぞれの登場人物の思いを読み取ろう。

「僕」

それぞれの登場人物の

印象の変化について

生徒から出た意見を

板書する。

「エーミール」

「僕の母」

登場人物の印象が変わったのは、なぜだろう？

根拠や理由を明確にして、考えよう。

・(全体交流で出た生徒の意見を板書する)

まとめ

視点を明確にして読むと、

・描写に込められた作者の意図を理解できる

↓「深い読み」へ

・主人公以外の視点で作品をとらえ直せる

↓「多面的な読み」へ

ポイント

授業で身に付いたこと、

友達から学んだこと、

さらに学習したこと、など生徒の発言を板書する。

